

Title	「第1回日本博士人材追跡調査 (JD-Pro) から見た研究者の育成と課題
Author(s)	小林, 淑恵
Citation	年次学術大会講演要旨集, 30: 422-425
Issue Date	2015-10-10
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/13308
Rights	本著作物は研究・技術計画学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Science Policy and Research Management.
Description	一般講演要旨

2B27

「第1回日本博士人材追跡調査（JD-Pro）」から見た研究者の育成と課題

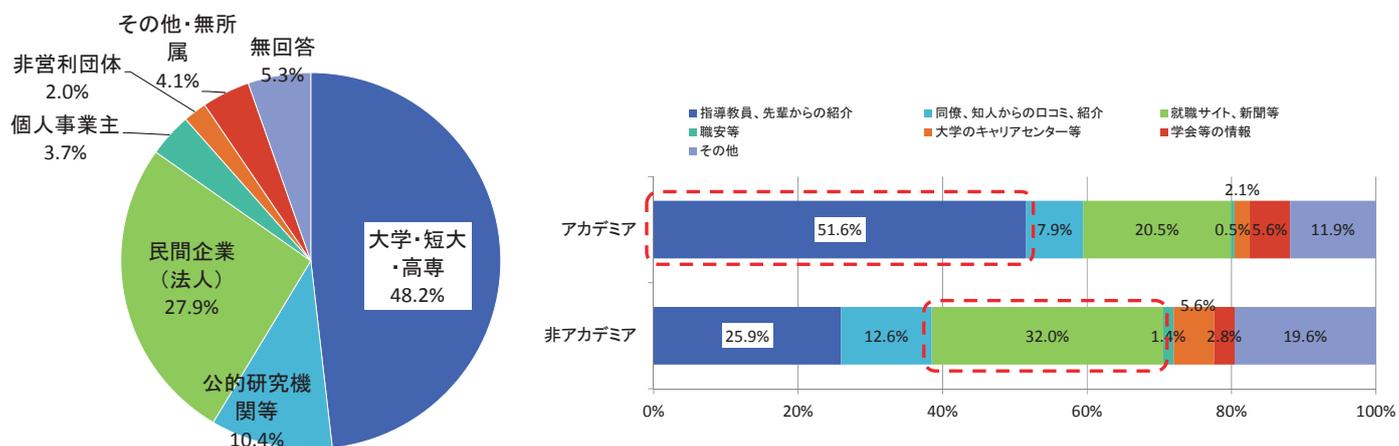
○小林淑恵（科学技術・学術政策研究所）

趣旨

「第1回 日本博士人材調査（JD-Pro）」は、博士課程の修了年コホート（2012年度博士課程修了）を特定し、個人に対して質的調査を実施したもので、日本では初の試みである。博士在籍中の教育・指導状況、就業状況、所得、仕事の満足度などについて詳細に尋ねており、大学を通じた個人への連絡先把握率は80%を超え、最終的な有効回答数も4割近く良好な回収状況であった。

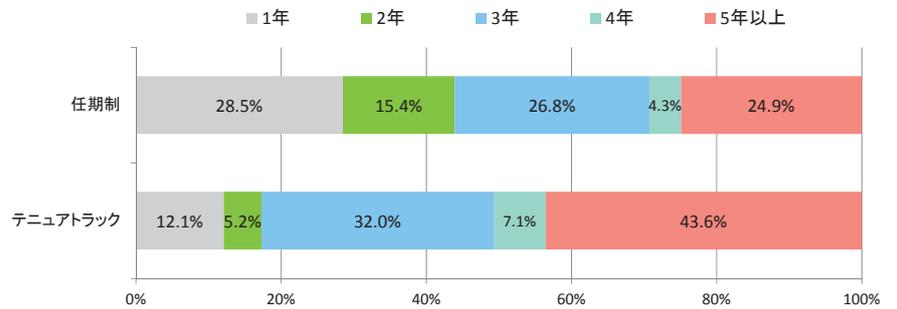
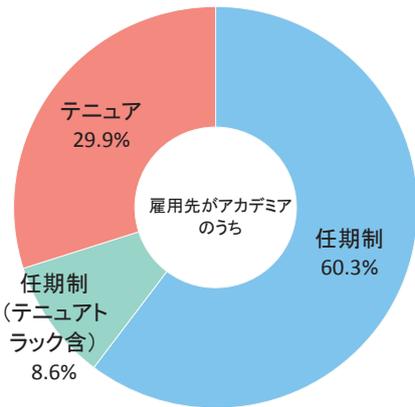
本報告では、このデータを使用し、現在の雇用先がアカデミアと非アカデミアの場合に分け、就職の際の求人情報源、現在の雇用形態、所得、仕事の満足度等についてクロス集計した結果を示し、さらにアカデミアか非アカデミアかの就業選択関数をロジスティック分析することで、進路選択に対し影響を与える要因について検討を行う。これにより博士号取得者が民間企業等へ進路先を拡大するための政策的知見を得ることを目的とする。

1. 博士課程修了後の進路先と求人情報源



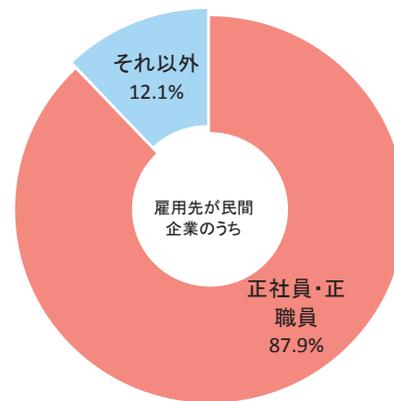
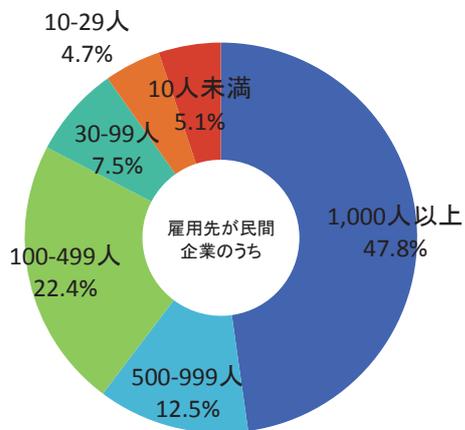
- ・雇用先は、アカデミア（大学・短大・高専、研究機関等）が約6割、民間企業が3割
- ・アカデミアへの就職は、指導教員、先輩からの紹介などが半数以上を占める。
- ・非アカデミアへの就職は、就職サイトや新聞の利用などが最も多く、自主的な活動による。
→キャリアパス拡大には一層の組織的な支援が必要か。

2. 進路先がアカデミアの場合



- ・雇用先がアカデミアの場合、約6割が任期制雇用。
- ・任期期間は3年が多いが、テニユアトラック制の場合は5年以上が多く、安定した環境で研究に取り組むことができる。
- ・通常の任期制の場合、4割以上が2年以下の任期と短く、安定して研究に取り組むことは困難。

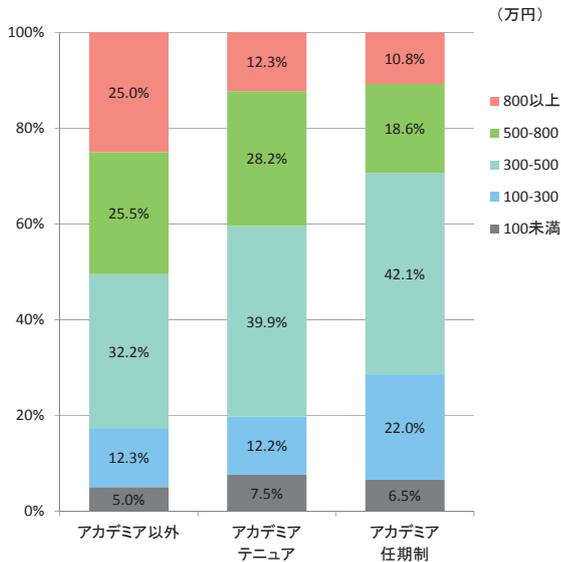
3. 進路先が民間の場合



- ・民間企業への就職者は大企業に多い。
- ・民間企業の場合、9割近くが正社員、正職員として雇用されている。

4. アカデミアと民間の違い

4-1. 所得

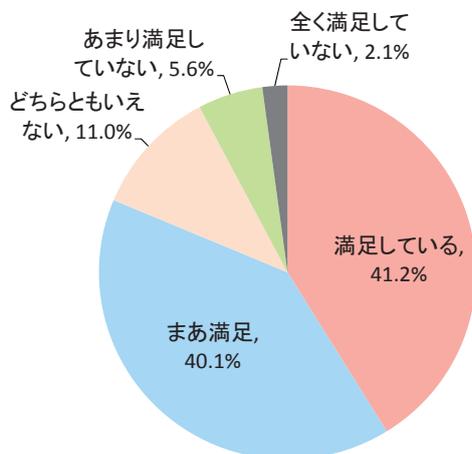


注1) 博士の所得は29歳以下の課程学生で、「収入なし」を除いて算出。注2) 大学卒、大学院卒は「平成24年度 就業構造基本調査結果」(総務省統計局) 表番号40 BO40(4) 25-29歳より作成。
<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020103.do? toGL08020103 &tclassID=000001048178&cycleCode=0&requestSender=search>

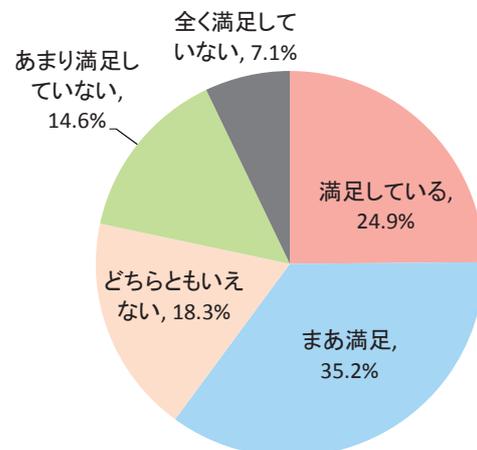
- ・博士の所得は、社会人や保健分野を除いても、500万円以上の所得水準の高い者が多い
- ・一方で、100万円未満の低所得層は大学卒者より多く、100-300万円の所得者層も大が大学院卒者(博士含む)より多い。バラツキが大きいと言える。

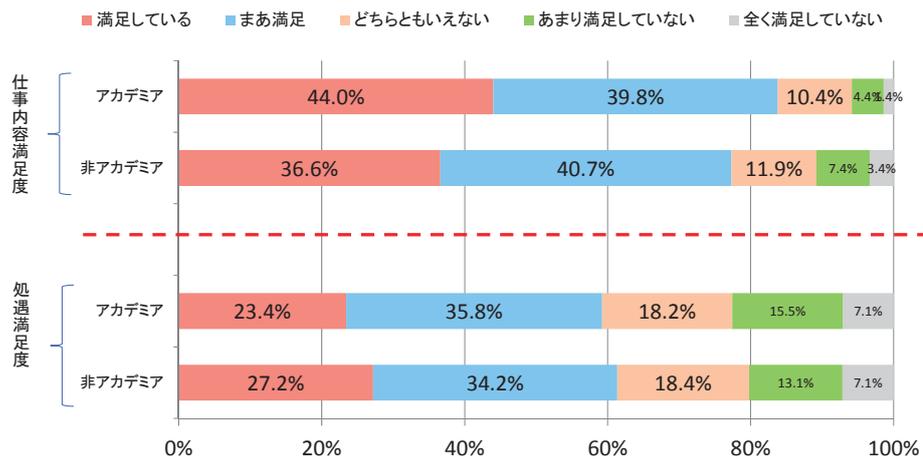
4-2. 仕事満足度

a. 仕事内容満足度



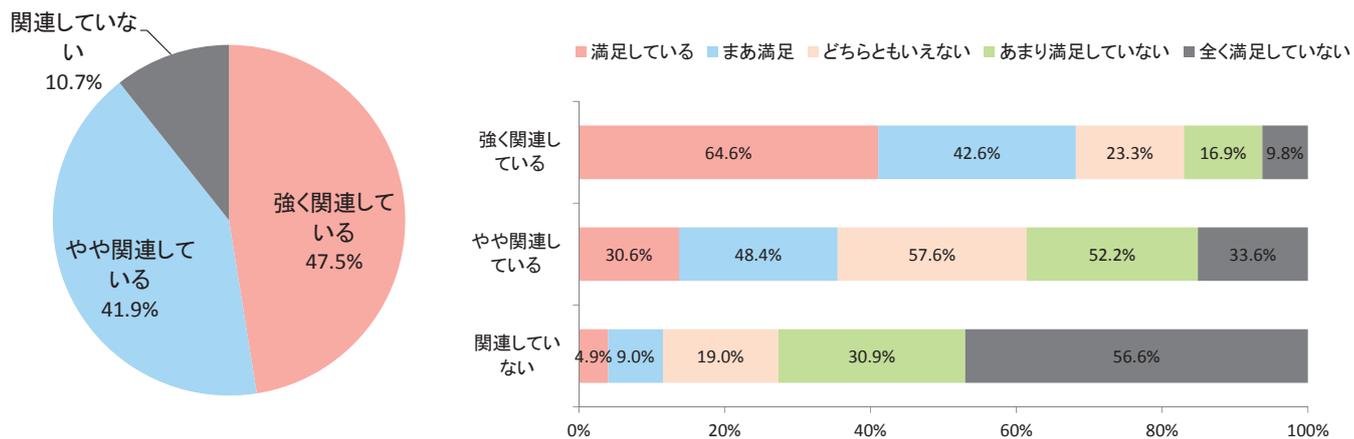
b. 処遇満足度





- ・ 仕事内容についての満足度は高いが、処遇満足度はそれに比べ低い
- ・ 分野や大学グループの差はあまりない（掲載せず）

5. 仕事満足度に影響するもの



- ・ 博士課程での研究と現在の仕事の関連性は高い。
- ・ 大学院での研究内容と関連する仕事であるかどうか、仕事内容の満足度に強く影響している。